

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.22

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

三陸復興の取組がNHKラジオで全国に紹介されました

9月9日、岩手大学でNHKラジオの「ここはふるさと旅するラジオ」の公開生放送が行われ、岩手大学の三陸復興支援の取組が全国に紹介されました。「ここはふるさと旅するラジオ」は、ふるさとの「やる気」「元気」「本気」を全国に向けて発信している番組で、NHKラジオ第1とFM放送で昼の時間に生放送されています。

番組はNHK盛岡放送局の村上由利子アナウンサーの司会で、最初に岩手大学の取組として、三浦靖岩手大学三陸水産研究センター長（農学部教授）が、被災地の企業と共同で取り組んでいるハーブ干物を紹介しました。ハーブ干物は天然の酸化防止剤といえるハーブ抽出物を塩の代わりに使用することにより減塩に成功しています。また干物は天日干しが一般的ですが、紫外線を当てると脂が酸化して傷むというデメリットがあり、高温になると食味も変わってしまいます。これを防ぐためにハーブ干物は低温除湿乾燥法を用いています。ハーブ干物を試食した金澤チーフプロデューサーの「ジュシーで柔らかく、非常に美味しい」との感想は、音声だけのラ

ジオからでもその美味しさが十分に伝わってきました。

続いて、釜石サテライトで心のケア活動に取り組んでいる佐々木誠特任准教授が、2年半を経過した被災者の心理面の状況を説明し、「心の時間の進み方は人によって異なるので、今後さらに細やかなケアが必要」と訴えました。

最後に、ボランティア活動を行っている学生を代表して岩手大学公認ボランティアサークル「ANEW」の宇部陽子さん（工学研究科博士前期課程2年）が仮設住宅に入居している子どもたちを対象とした「遊びの場の提供」の活動について説明し、被災地では児童生徒がいまだに遊びの場を確保することが難しい状況であることを伝えました。

放送後、首都圏のリスナーからハーブ干物の購入方法、被災地の水産加工会社から製造方法に関する問い合わせが多数寄せられ、岩手大学の復興活動への関心の高さが窺われました。



村上アナウンサーからインタビューを受ける
三浦三陸水産研究センター長（右）



ハーブ干物を試食し、その美味しさを伝える
金澤チーフプロデューサー（右）



被災者の心のケア活動について説明する
佐々木特任准教授

久慈市・岩手大学地域連携フォーラム2013を開催しました

8月28日、久慈市内で「久慈市・岩手大学地域連携フォーラム2013」を開催しました。

このフォーラムは、平成18年2月に岩手大学と相互友好協力協定を締結した久慈市で、岩手大学との連携事例や産学連携の取組を紹介し、久慈市の方々に岩手大学をより身近に感じてもらうことを目的に毎年開催しているものです。

フォーラム冒頭では、主催機関を代表し、山内隆文久慈市長と藤井克己岩手大学長がそれぞれ挨拶を行い、その後、三陸復興推進機構長を務める岩淵明理事・副学長が「岩手大学による震災復興への取組」と題して、岩手大学が久慈市で取り組んでいる事例などを挙げながら農林畜産業、水産業復興の支援活動



挨拶する藤井岩手大学長



挨拶する山内久慈市長

を中心に説明しました。

また、久慈市の全面協力の下、平成24年4月3日に設置した三陸復興推進機構久慈エクステンションセンターの川尻博プロジェクトマネージャーが、この1年間に取り組んできた久慈市沿岸岩礁域漁場調査、水産クラウド事業等の概要について報告しました。

フォーラムには一般市民約130名に加え、将来、久慈市の復興を担う世代である久慈高校と久慈東高校の生徒約20名が参加し、岩手大学の取組について熱心に耳を傾けるとともに、講師に対して積極的に質問を行いました。

岩手大学では、今後も沿岸で様々なフォーラム・シンポジウムを開催し、岩手大学の復興活動を紹介するとともに、被災地のニーズを汲み上げる取組を行っていきます。



活動報告する久慈エクステンションセンターの
川尻プロジェクトマネージャー

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は小動物専用移動診療車「ワンにゃん号」の出勤により、伴侶動物の環境向上や動物を通じたコミュニティの形成に取り組む被災動物支援班の活動の一例をご紹介します。

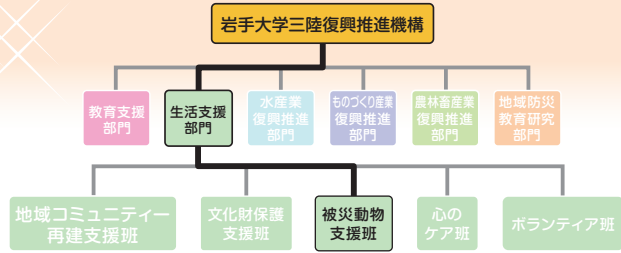
人と動物の共生をめざした支援活動

～家族である動物と共に生きるために～

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 被災動物支援班
 佐藤 れえ子 (農学部 教授)
 大澤 美香 (三陸復興推進機構 特任研究員)

被災動物支援班は、人と動物のよりよい共生をめざして活動しています。動物とともに暮らすことは、人に癒しを与え精神的な安定を取り戻すとともに、健康を維持、増進する等、社会生活の安定に大きく寄与するものです。そのためには、動物の健康を維持するために飼養環境を良くしたり、社会の中でのよい関係を保つためにしつけと管理の必要性および動物を通じたコミュニティの形成などの支援を行うことを重要視しています。

震災から2年経ち、宮古、釜石、大船渡などの動物病院は、ほぼ震災前に近く回復してきました。今年度は、動物病院から遠い地区である田老、大槌へ小動物専用移動診療車「ワンにゃん号」を出勤して、「動物なんでも相談会」と「しつけ相談」を開催しました。屋外の診察台の上で健康状態を診た後アドバイスをし、必要であれば「ワンにゃん号」内で診察、精密検査をして、薬や処方食を処方したり、治療に長くかかる場合は、近い所の動物病院を紹介しま



した。また、健康状態に合う支援フードの配布なども行いました。動物の健康に不安を感じたり、しつけの相談で来られた飼い主さんは予想以上に多く、家族の一員として家庭動物が位置づけられ、動物の健康に関心が高いことがわかります。

また、各地でのニーズ調査をもとに、動物飼育に関する不安の解消と飼い主の方々のコミュニティ作りを目的とした、「動物なんでも茶話会」(セミナー)を開催しています。この中で動物の飼い方、異常行動に対する対処、動物の食べ物や栄養、ペットロスなどの問題に応じた知識提供を行っています。



大槌町での移動診療の様子

今後は、引き続き「ワンにゃん号」出勤による「動物なんでも相談会」を開催し動物の健康増進を図るとともに、「動物なんでも茶話会」と「ホースセラピー」の継続および被災地管轄の保健所と協力して「犬のしつけ教室」を実施していく予定です。

大船渡エクステンションセンターだより

●客船「ばしふいっくびいなす」が大船渡港に入港

9月6日、客船「ばしふいっくびいなす」が三陸復興国立公園クルーズの一環で大船渡港に入港しました。「ばしふいっくびいなす」の入港は今回で通算8回目となり、野々田ふ頭では綾里地区の綾里大権現の舞の披露や、地元の子育園児による和太鼓演奏など、多彩な入港歓迎行事が行われました。大船渡エクステンションセンターが設置されている大船渡市商工港湾部の職員も、前日から記念セレモニーや物産販売の準備設営に追われ、慌ただしい様子でした。歓迎セレモニーでは、戸田公明大船渡市長から「皆様には温かい支援をいただいております。今回の寄港にも心から感謝を表したい」と挨拶があり、市民や関係者とともに客船の入港を歓迎しました。歓迎式典後は船内見学やアカバラグループによるミニコンサートも行われ、港は活気づきました。また、被災しながらも復旧を果たした地元企業が物産販売で元気な姿を見せており、地道ながらも着実に進む大船渡の復興を、肌で感じる事ができました。



「ばしふいっくびいなす」歓迎式典を盛り上げる「おおふなとん」

●いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト第1回気仙地区沿岸交流会

9月24日にシーバル大船渡で行われた「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト第1回気仙地区沿岸交流会」に参加しました。この交流会は気仙圏域(大船渡市、陸前高田市、住田町)で活動する支援団体・企業・行政間のネットワーク構築を目的に開催され、いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト

(マッチング事例)の紹介と、(株)マナビノタネの森田秀之氏による「交流人口」についての話題提供がありました。

復興のかけ橋プロジェクトとは、公益社団法人助けあいジャパンが岩手県からの委託を受け復興支援マッチングと復興関連情報の発信を目的としたプロジェクトであり、陸前高田、釜石、宮古、久慈、盛岡を拠点に活動しています。助けあいジャパンの釜石事務所は本学釜石サテライト内に設置されており、様々なマッチングにおいて連携を図っています。

大船渡エクステンションセンターでも陸前高田事務所と連携し、本学農学部教員と野菜ソムリエコミュニティいわて合同の「クッキングトマトの講習会&試食会」を開催しました。会場探しから調理器具の準備、会場の設営など助けあいジャパンの陸前高田事務所には多くのご協力をいただきました。



現在岩手県沿岸には復興支援のため「シーバル大船渡」の大会議室でのグループワークの様子がみられます。同様に支援機関として横の連携も重要であると、今回の交流会に参加して改めて感じました。今後も関係機関とは積極的に連携を図っていききたいと思っております。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 大船渡エクステンションセンター

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15大船渡市商工港湾部内
 TEL:080-5745-9775 E-mail:ofunato@iwate-u.ac.jp

Information

つながって岩手 ～東京で広げる被災地コミュニティ～

被災地域のコミュニティをより強固なものにするためには、地域の住民に加え、地域の出身者の方や震災を契機とした地域外の支援者・ファンの方が地域の外からコミュニティを支えることが必要になっていきます。

岩手大学で行われている震災復興活動の報告に加え、東京でも広がっていく被災地コミュニティについて語り合います。

日時：12月7日(土) 13:00～16:30
 場所：板橋区立シニア学習プラザ(東京都板橋区志村3-32-6) グリーンカレッジホール

対象：一般の方、特に岩手県の復興支援にご関心をお持ちの方
 主催：岩手大学 共催：板橋区教育委員会
 後援：岩手日報社、岩手県東京事務所、岩手県人會、岩手大学同窓会連合

<プログラム>

- 第1部 岩手大学の活動
 - ・「岩手大学三陸復興推進機構の活動」
 - ・「コミュニティ支援の取組」
 - ・「被災学生からの報告」
- 第2部 東京で広げる被災地コミュニティ
 - ・「被災地の現状と拡大コミュニティへの期待」
- その他
 - ・被災地写真展
 - ・被災地物産展

本件に関する問い合わせ先
 三陸復興推進室 TEL:019-621-6629

編集後記

岩手大学を紹介するテレビ番組「ガンダイニング」の放送が今年も始まりました。10月から12月にかけて、岩手大学の魅力あふれる情報を地域のみならず発信していきます。

9シーズン目の今年は、関向良子さん(教育4年)と藤田奈津希さん(人社3年)の2人が岩手大学マスコットキャラクターの「がんちゃん」とともにリポーターを務め、岩手大学の「いま」を伝えます。皆様、是非ご覧ください。



藤田さん(左)と関向さん

10月1日スタート
 放送日 毎週火曜日18:55～18:58 再放送同日24:53～24:56
 IBC岩手放送(TBS系列)